
地味面と論理と人助け

五十嵐十五

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地味面と論理と人助け

【Nコード】

N1364P

【作者名】

五十嵐十五

【あらすじ】

地味面の俺がチャラ男のために

空気を感じるという力をつかい、物語を解決させる！！

っていうほどでもないけどそんな感じの物語

（前書き）

地味面が、頑張るお話です!!!

まだだ…まだ…次か？

そのとき、空気が変わるのを俺は、感じた。

「ちよつといいか？」そういつて人をどけおもむるに、お金を機械の中に入れる。

周りが静まり返る……………

「きた——————」

「——」

小さい子供たちを、どけて、カードゲームをやり、レアカードをあてて、叫んでる高校生がいた。

そう、それこそが、俺、だった。ごめんなさい…

「またやつてるよ」そう声をかけながらこつちに来るのは、一緒の高校にいつている、いうなれば…友達？の四谷潤よつやじゅんだった。「しかしお前はすげーな。よくもそうレアカードがあたるね。」と語ってる潤だが、彼はこの場にふさわしくない姿をしている。髪は金髪。カッコもチャライ。すつごくチャライ。

正直子供がさつきからビビッている。

俺はそんなことを思いながら、「何か、きそうだなーって、空気を感じるんです。なんとなくですが…」

…なぜ敬語かって？そりゃあそうさ、俺はクラスでいったらいけない組。イケメン、チャラ男を前には腰が引ける。なのになぜ絡んでいるのかって？それにはわけがあるに決まってる。

そんなことのあった帰り道。

「なあ、最近、おれらの学校でいじめがあるってしってるか？」

「そうなんですか。誰がいじめられているんですか？」

「そのことなんだけど…」少し言いずらそうな雰囲気ふんいきの四谷。なぜか気持ちの中では呼び捨て。苗字だけど…

「四谷さんのしりあいですか？」

「ああ、てか彼女なんだけど…」

みたに
「三谷さんですか？」

「わけありでな。どうにかして、助けてーんだけど。なにせ、裏サイトが始まって、その後はあるやつらだけの間で指示や意見が、いつているみてーなんだ。打つ手なしだ…」

「そうなんですか…何が原因なんですか？」思わずきいてしまう。

「よくわからない。俺と敵対してるやつにも、言ってみただけど、そんなことは、しねえ！！」っていわれちまった。」

「そうなんですか…」このとき俺はどうしても力になりたいと思った。

「おつと俺はこつちだから」「僕はこつちなので」

そういつて四谷と別れたて、俺は必死に考えている。

（どうすればいい？何か力になれないのか？あの時助けてもらったんだ。絶対にたすけなきや。でも地味で根暗なこの俺がどうやって？）

考えているうちに、家についてしまう。（今日の夕飯は…ハンバーグだな）なんとなくそんな空気を感じた…

「ただいま、今日の夕飯って、ハンバーグ？」一応聞いてみた。

「そうよ。あんた相変わらずいい勘しているのね！！それをほかの事にいかしてくれないのかしら？」

母親の受け答えに、苦笑いする俺……

ほかの事にいかす？この勘的な能力を？

確かにこの勘はカードを当てたり、するのには役に立つ。ただ俺の気づいている範囲では、欲しいカードが出るときがわかる。ってわけじゃなくて、レアカードがそうだなって、空気がわかるだけだ…

つまり、何かしら、の条件があるはずだ…。まあ空気を感ずる。空気が読める男ってことか？とおもっている。

だったらもつとくらすで、いけてる組になりたいって思う。

ただ決めた。俺のやり方でいじめているやつらの主犯を見つけ出す！！！！

と張り切ってみた次の日の学校：

実際やっていたことはシンプルだった。

【いじめ】ということにたいする、空気を感じているだけ：

って言うけどいつもどおり、一人で教室で過ごしているだけだった。ただそれでも意識してすごしているだけですぐにわかった。

昼休みになり四谷のところにいき、

「四谷さん。犯人わかりましたよ」

「もう！？すげーなどうやった？」「勘です！！」「勘なのかよ！！」「レアカードを当てれるほどの勘です！！」

と冗談をかわしつつ、自分の力についてわかることを教えていった：

「で、犯人はだれなんだ？」「同じクラスの一文字瞳さんです」

「うそだろ！？俺の調べた限りでは、そんなことは少しもなかったのに！！？」

「なので、勘です。四谷さんの人脈の広さでもムリなものは僕ではムリですの…」

「でもどうやって、犯人って言いくるめるつもりだ？」

「まあ、僕に考えがあります。」

放課後、四谷さんにたのみ、一文字さんを教室に残らせた。

この学校では部活動が盛んなため、もう教室には、人はいない。

「だましてしまって申し訳ありません。あなたにお話がありましたね。」

「あんたみたいな地味なのが告白？」

「うぬぼれないください。そんなことは、ゴキブリが、かわいく見えるのと同じくらいありえません。」

「てめえ、調子にのんなよ？」につこりと笑いながら決まり文句を口にする一文字。ちなみに、女子は心の中でも、さんづけな俺だったが、普段の僕の調子を知っているなら、その台詞口にしてもいいですが、知らないくせにいわないほうがいいですよ？僕もあなたと、話したくないので、用件だけいいいます。三谷さんをいじめるのやめてもらえますか？」

出来るだけやさしく、馬鹿にしたように言っておく。優しさは人を見下しているから出来る。

「はあ？意味わかんない？証拠は？」

「その台詞ですかね？まあ証拠なんてないんですけど、まあ、違うのならケータイでも見せてもらえるとありがたいんですが。なにせ、いじめを実行している人は、みんなメールをすぐ削除しているみたいなので…」

そのうえ、誰が主犯かわからないように細工もしてくれちゃってましたしね。」

「だから何でウチなわけ？」

そりゃあそうきます

よね…？

「いいから見せてくださいよ？ダメなら犯人ってことでいいですか？」

「もしもし？ちよつときてくんない？ 教室にいるから。」

……！！

！？？？聞いちゃいないか？結局こうなるのか…笑えねえ

「笑ってられるのも今のうち。ウチの彼氏よんだから？知ってるよね？ボクシングやってるんだよねえ…」

「そりゃすごいですね。尊敬です。」やばい、やばい、やばい、引

「何か？」

「そうよ三谷はあたしがいじめさせてる。明日からはあんたもただね」勝ち誇った顔でそういつてくる。

「つか！……！KYだなお前。俺みたいなのやつが何の準備も種も仕掛けもなく、こんなところに来ると思うか？地味面だぞ？俺は。もちろん種も仕掛けもあるに決まってるさ。」

そういつて俺のケータイを見せる。その画面は通話中。

「チェック・メイト？つてやつだ」

「なによあんたいきなり！！そ、そんなの聞かれたって、どうだつてのよ？こいつだけでもやつちゃって！！」

「いわれなくてもな！！」そういつて襲い掛かる彼氏さん。

ちなみにその後。もちろん実は俺が強かった。

なーんてこともなく、ボコされているところを電話の相手だった四谷が助けに来てくれて、その他、何名かとともに相手を押さえ、無事に終わった。

「おまえすごいな。本当にありがとう。」四谷はそういった

「力になれてうれしいですよ。これで貸しが返せばいいですけど」

「そんなのないっての！！そんなことより、敬語やめろって！！」

なんていつてくれるが、もちろん貸しは返せてないから、敬語を辞めるつもりもない。

「しかしホ、その勘すごいな！！空気を感ずる…便利だな。」

「ええ、まあ、」

そんな会話をしながら、今日も一日が終わろうとしている。

いつもと違うことは、あたらしく、俺たちの、グループが出来たこと
それぞれが自分の力を生かした何でもや。

今日から、いったいどんな人間が、やってくるのか…

そんな風に、

まだ見ぬ人間のことを考えていくのも悪くはない。

（後書き）

へたくそですみません

ぜひ感想ください！！

お願いします

よんでいただきありがとうございました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1364p/>

地味面と論理と人助け

2010年11月25日22時13分発行